

令和5年度都城市立西小学校学校評価書

1 学校の教育目標

- 豊かな心と自ら学ぶ意欲をもち、積極的にねばり強くがんばる児童の育成

2 学校経営ビジョン

「教育は人をはじめとする環境なり」を基本理念として、教育者としての自覚と責任をもち、児童の実態及び保護者や地域の願いを十分に把握し、

- ① 確かな児童理解に努め、「チーム西」で校風を醸成する学校経営
- ② 教育活動の一步前進に努め、「目指す児童像」の具現化を図る学校経営
- ③ 家庭・地域との連携に努め、信頼関係を築く学校経営
- ④ ギガッど! みやこんじょ W (西中校区) の進撃 ～子ども先生もICTを使いこなすっど～
- ⑤ 働き方改革を推進し、居心地のよい職場を実現する学校経営を推進する。

【確かな学力向上対策の推進】 (知)	【心の教育の充実と積極的な生徒指導の確立】 (徳)	【生命尊重を基盤とした体力の向上・健康的な生活習慣の確立】 (体)	【地域との連携による開かれた学校づくりの推進】 (ふるさと教育)
1 基礎的・基本的な内容の習熟と実態に即した発展的な学習内容への積極的な取組 2 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善 3 保護者との連携を密にした家庭学習の充実 4 生涯読書活動の推進	1 基本的な生活習慣の確立 2 生徒指導の三機能を生かした教育活動の展開 3 他校(さくら聴覚支援学校、吉之元小、西岳小)との交流活動の推進 4 西小のよい校風(西風)の醸成	1 体力向上プランを基にした体育の時間の指導の充実と日常的な運動の推進 2 家庭と連携した健康的な生活習慣(早寝早起き朝ごはん)の確立及び安全意識の醸成 3 家庭と連携した食に関する指導及び立腰指導の推進	1 情報提供の充実(H Pの積極的更新と学校便りの定期的発行) 2 学校運営協議会の機能充実 3 三校(西中、明和小、西小)及び地域関係団体との積極的な連携強化

3 達成状況評価基準

- 4段階評価 … A (100～80%) B (79～60%) C (59～40%) D (39%未満)

※ 到達度は教職員と児童、保護者、外部評価の到達度の平均

4 自己評価結果

評価項目	評価指標	自己評価項目	到達度 (%)	評価	総合 評価	◇成果 ◆課題・改善策
学力の向上	○ 基礎的・基本的な内容の習熟と実態に即した発展的な学習内容への積極的な取組	・ 学習事項の習熟や定着の時間を確保している。	86	A	A	◇CRTテスト（標準学力検査）の結果は、算数で全学年が全国平均を超え、国語では4つの学年で全国平均を超えている。 ◆多面的、多角的にもの見方や考え方ができるような学習指導過程を展開することが必要。
	○ 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善	・ 児童が学び合う指導過程を工夫し、分かる授業に努めている。	85	A		◇ICT を活用して教材の提示・共有を行ったことが、分かる授業につながった。
		・ 基本的な学習習慣の確立に努めている。	83			◆対話的な学びをより実現するために、さらに授業改善を行っていく必要がある。
	○ 保護者との連携を密にした家庭学習の充実	・ 家庭学習の充実に努めている。	83	A		◇タブレット型端末を自宅に持ち帰って学習する機会が増え、自宅でも AI ドリルに取り組んでいる。 ◆ノーメディアの必要性を保護者に伝え、家庭での実践を継続して推進する。
	○ 生涯読書活動の推進	・ 読書活動の推進と語彙力の向上を図るため、学期目標冊数以上の達成を目指している。	62	B		◇図書主任や図書館サポーターによるいろいろな貸出イベントを実施することで、貸出冊数を増やすことができた。 ◆読書を好む児童とそうでない児童の二極化が見られる。読書時間の確保を計画的に行う必要がある。

心の教育の充実	○ 基本的な生活習慣の確立（西小のよい校風「西風」の醸成）	・ 「いじめ0」「気持ちのよいあいさつ・言葉遣い・態度」「けじめ」	74	A	A	◇生活委員会を中心に、朝のあいさつ運動が活発に行われた。 ◇2分前入室・1分前着席を徹底し、けじめのある態度で生活することができた。 ◆登校時や学校生活での返事・あいさつの学級での指導を工夫していく必要がある。
	○ 生徒指導の三機能を生かした教育活動の展開	・ 「道徳科」における体験学習の指導や方法の工夫改善を図っている。	85	A		◇道徳の時間の指導は、各学級で確実に指導し、道徳的实践力の育成に努めた。 ◆児童の本音を引き出し、よりよく生きるためにはどのような社会的スキルが児童に必要なかを考え、日常的にトレーニングしていくという実践的な道徳教育が必要である。
	○ 他校（さくら聴覚支援学校、吉之元小、西岳小）との交流活動の推進	・ 同学年や他学年、交流学級の友だちとの交流活動を通し、互いを尊重しながら共生することの大切さを実感できる児童を育成している。	89	A		◇校内における学級・学年間の交流や、特別支援学級と交流学級の交流は行うことができています。 ◇さくら聴覚支援学校との交流学习を再開することができた。 ◆吉之元小・西岳小との交流会は中止となった。今後、その教育的意義を考え、開催を検討していく必要がある。
命を守る力の向上	○ 体力向上プランを基にした体育の時間の指導の充実と日常的な運動の推進	・ 体育の時間の運動量の確保に努めている。	89	A	B	◇年間指導計画に沿って、体育の全領域を経験させ、運動量確保につなげた。 ◇昼休みの体育館開放等、日常的な運動につながる取組を行うことができた。 ◆体育主任が中心となり、共通理解や授業力の向上等、各学年との連携を図っていく。
		・ 日常的に運動意欲が高まるように声かけや環境整備に取り組んでいる。	76			
	○ 家庭と連携した健康的な生活習慣（早寝早起き朝ごはん）の確立及び安全意識の醸成	・ 家庭と連携した健康的な生活習慣の確立に努めている。	69	B		◇学校保健委員会では、保護者と6年生児童を対象に講演会を行い、食育について理解を深めることができた。 ◆健康的な生活習慣や安全意識の確立のために、保護者に、参観日や学校保健委員会などの機会に繰り返し呼びかけていく。
		・ 家庭と連携した安全意識の確立に努めている。	81			
		・ おし歯の治療率70％を目指している。	73			
	○ 家庭と連携した食に関する指導及び立腰指導の推進	・ 家庭と連携した食育指導に取り組んでいる。	69	B		◇立腰の意識は、ほぼ定着している。 ◆昨年度は、栄養教諭の定期的な指導があったが、本年度は配置がなくなったので、給食での食育指導を充実させていく必要がある。
・ 家庭と連携した立腰指導に取り組んでいる。		62				
地域との連携充実	○ 情報提供の充実（HPの積極的更新）	・ 地域の方へ積極的に教育活動の公開に努めている。	77	B	B	◇ホームページ更新のメールを送信して、今年度も1年間で約10万アクセスを達成した。 ◆教頭がほとんどの更新を行った。多くの職員が関わり内容をさらに充実させる必要がある。
	○ 学校運営協議会の機能充実	・ 地域素材・人材の積極的な活用を図り、教育効果を高めている。	68	B		◇本年度も地域学習を平日に分散して開催した。のべ100名を超えるボランティアに協力していただいた。 ◆今後、地域学習から地域へ働きかける学習への進化をどのような形で行っていくか検討する必要がある。
	○ 三校（西中、明和小、西小）及び地域関係団体との積極的な連携強化	・ 横市地区小中一貫教育推進会議で取り決めた「共通実践事項及び具体的取組」について、意識して積極的な推進に努めている。	65	B		◇ICTの活用に必要な研修を3校合同で行うことができた。 ◇研究授業を本校で実施し、授業改善についての研修を3校合同で行うことができた。 ◆コロナ禍以前の状況に合わせた実践について、3校で再確認していく必要がある。